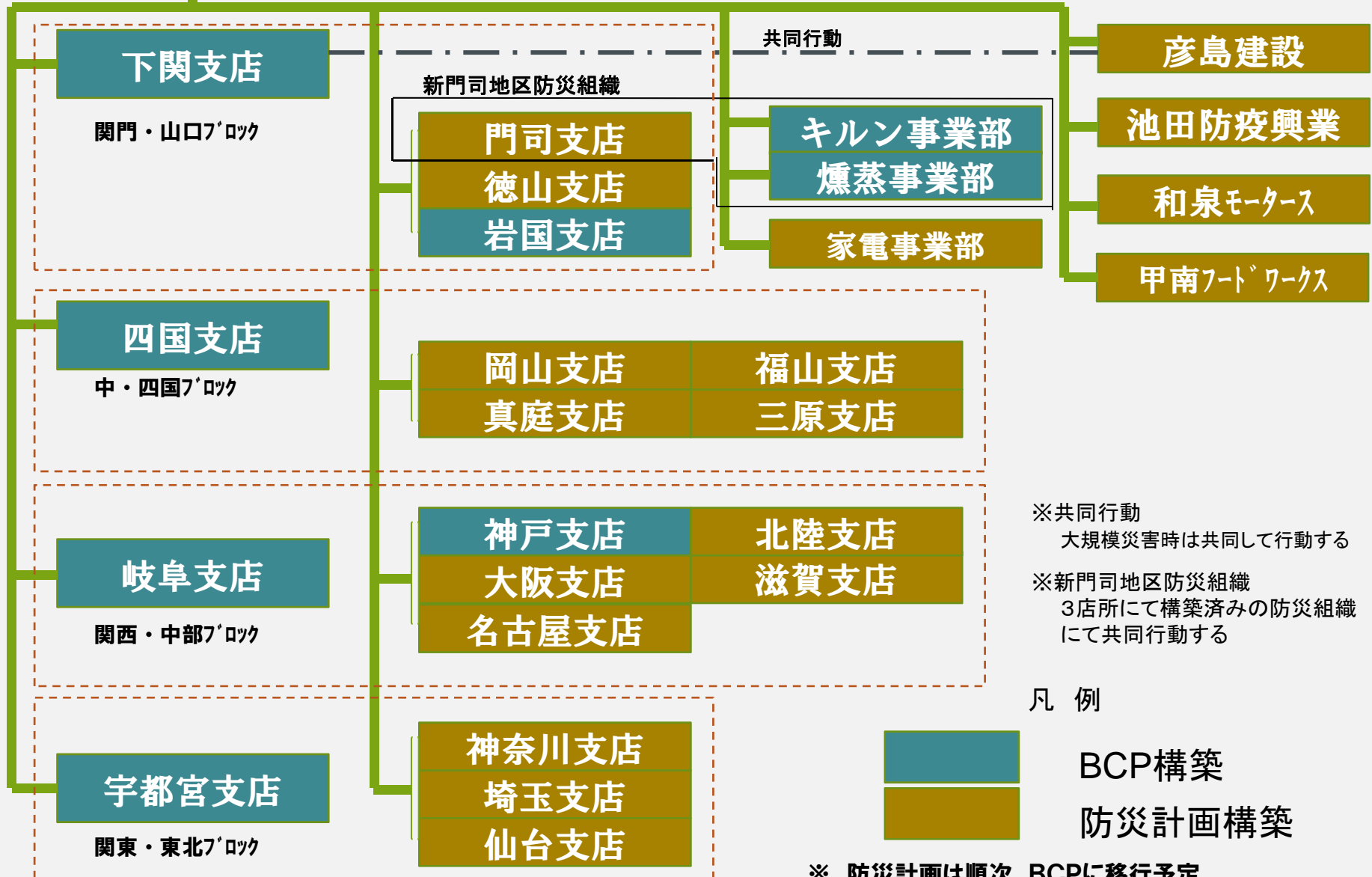


池田グループ 大規模災害対策体制

本社（大阪・門司）

平成29年 7月 1日現在



大規模災害対策体制の構築

BCP

BCP体制の構築 (H25年度)

継続的改善と有効性の向上 (H26以降)

防災計画

※但し 防災計画は順次 BCPに移行予定 (H27以降)

防災計画体制の構築 (H26年度)

継続的改善と有効性の向上 (H27以降)

■ Level 1

気づきと
体制整備

■ Level 2

BCP策定
防災計画策定

■ Level 3

対策実施と
訓練による
検証と改善

■ Level 4

改善活動の
現場への
定着

1年目

2~3年目

5年目以降

継続的改善と有効性の向上

BCP, 防災計画が【**実効性のある計画**】にする為、教育の他 訓練を重要対策事項として、積極的に取り組んでおります。

模擬訓練

現実的にはなかなか経験できない大規模災害。今までの経験、教育実績等から講師が災害場面をストーリー化し、訓練対象者（社員）に“この場合どうしますか？”と問いかけ、答えを引き出す。

実地訓練

自分たちで決めた初動行動、復旧活動が計画通りに実施できるか。実現性を見極める事を目的に実施する。

訓練により顕在化した事実と“気づきに”より表面化した、**現在潜在している問題点等（見えない部分）**を可視化させ、計画の有効性を高める。

※ 基本的には 模擬訓練、実地訓練は隔年で実施継続する事で**効率的にレベルアップを図る。**

当社の大規模災害の定義

本社又は店所（支店及び事業部、関連会社、但し国内に限る）**所在地付近**で、次の事象が発生した場合とする。

(1) 震度 **6強** 以上の地震

(2) 自然災害(地震、豪雨、洪水、津波等) や、火災・事故等により、**広域な地域に甚大な災害**が発生する場合

災害レベルと対応

危機レベル

状況・状態

被害

対応マニュアル等

対策本部



危機レベル	状況・状態	被害	対応マニュアル等	対策本部
レベル3	<p>大規模災害 A : 地震震度6強以上 B : 甚大な自然災害発生</p>	有	BCP 防災計画 安否確認システム	A、B 本部長判断で立上 ↑ 提案
レベル2	<p>↑</p> <p>・地震震度6強未満 ・津波・台風等 ③避難勧告以上 ②警報発令 ①注意報発令</p>	有	NDR (自然災害報告) ディスクネットによる 情報の共有	被害状況等懸案し、安全部長が検討
レベル1	平常時	無	特になし	不要

甚大な自然災害発生基準の具体化

- 今回、“NDR”により災害による被害情報制度を設け、**迅速に被害情報を収集・共有化**が可能になった。
- それにより「大規模災害」として、甚大な自然災害発生を客観的に判断し、対策本部設置が早期にできる。当然 対応も早期にでき、被害を最小限に食い止めることも可能である。
- その意味で、“NDR”は予防機能も併用している。